



(京都東南部)

森出雲遺跡、奈良時代から  
又、当地は、縄文時代の金

## 京都・伏見城跡

1 所在地 京都市伏見区桃山町金森出雲  
2 調査期間 一九八六年（昭61）一月～二月  
3 発掘機関 勅京都市埋蔵文化財研究所  
4 調査担当者 小森俊寛・上村憲章

5 遺跡の種類 城郭跡  
6 遺跡の年代 桃山時代～江戸時代初頭  
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

伏見城は、文禄五年（一五九六）豊臣秀吉によって桃山丘陵に築城が始められ、元和九年（一六二三）に廢城となるまで三〇年弱の期間

存続している。調査地は、  
御香宮の西側に隣接する敷

地で、北は毛利橋通りに面  
している。桃山丘陵の中央  
から西に延びる支丘陵上に  
位置し、大名屋敷が構えら  
れた地域にあたっている。

8 木簡の釈文・内容  
木簡の釈文・内容

平安時代後期とされる御香宮廃寺跡等の遺跡が重複する地域である。  
一九八五年に当地が宅地造成されることとなり、その造成工事に  
先だって試掘調査を行い、近世初頭の門跡を始め、古代から中世の  
遺構・遺物等を検出した。これらの成果をもとに発掘調査を実施し  
ている。

伏見城の存続した桃山時代から江戸時代初頭の遺構は、厚い整地  
層の上面に造られており、門跡・石組井戸・溝・掘込み等を検出し  
ている。門跡は、礎石などの基礎的な部分及び石垣等が遺存してい  
る。これら門跡には炭・焼け瓦を含む焼土層が直接被つて堆積して  
おり、焼け落ちたものと見られる。焼土層出土の軒瓦には、瓦当面  
に金箔が残るものも認められる。この門跡は、大名屋敷の西門にあた  
るものであろう。木簡が出土した掘込みは、門跡の東方にあたる  
屋敷敷地内に掘られており、東西約一七m、深さ約二mを測る規模  
の大きな遺構である。ただ、南北方向については約六mを検出した  
にとどまり、全長は不明である。遺構内からは、下駄、箸、 笠、折  
敷、曲物の木器や漆器椀とともに、瀬戸・美濃・信楽・備前などの  
茶陶を含む国産陶器類、刀、小柄などの金属製品等が出土している。  
また土師器等の土器類も比較的まとまって出土しており、桃山時代  
から江戸時代初頭に比定される遺物群である。

(1)



中将御覽 はく衛門

大きかる



(2)



ます 一つ垣〔石カ〕右衛門尉

327×30×4 051

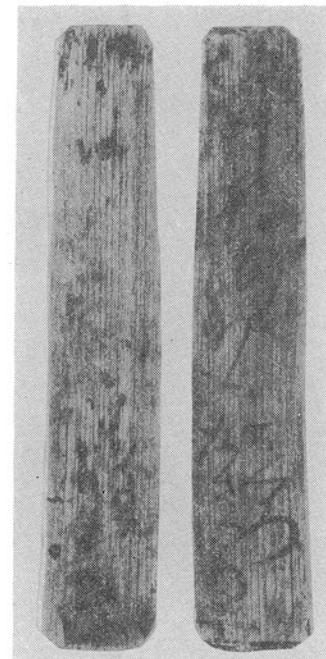
遺跡の種類  
集落跡

遺跡の年代  
旧石器時代～室町時代

7 6 5 4 3 2 1  
遺跡及び木簡出土遺構の概要

(1)には中将と見えるが、伏見城の存続した期間に中将の官職を授けられていた武将は、井伊直孝、織田信雄、佐竹義宣、島津家久の四人である。

(原山充志)



(1)



(大阪東北部)

## 大阪・西ノ辻遺跡

所在地 大阪府東大阪市西石切町

調査期間 一九八五年（昭60）10月

発掘機関 大阪府教育委員会

調査担当者 西口陽一・宮崎泰史

西ノ辻遺跡は、生駒山西麓に位置する中位段丘上の旧石器時代以来の複合遺跡である。一九八〇年より国道三〇八号線拡幅及び東大阪生駒電鉄敷設工事に先立つて、大阪府教育委員会・東大阪市教育委員会・財東大阪市文化財協会が共同で地区を分割して発掘調査を実施してきている。

木簡が出土した遺構は、いずれも井戸である。(1)の木簡は、径2.3m、深さ